

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



手指消毒の効果について

2020 年度は、国内の養鶏場では52件の高病原性鳥インフルエンザが発生しました。疫学調査では、内28件で鶏舎出入口における手指消毒や手袋交換が不十分と報告されています。農場に病原体を持ち込まないための「手指消毒」がますます重要視されるため、消毒方法の実例や効果についてご紹介します。

● 手指消毒の重要性

家畜伝染病を拡大させないための3原則である、病原体を「持ち込まない・拡げない・持ち出さない」というフレーズは、畜産の現場にいる皆さまは一度は耳にした事があると思います特に病原体を「持ち込まない」事は農場での発生予防の第一歩です。飼養衛生管理基準においても、農場の入り口や畜舎の入り口で消毒が定められています。消毒薬を常備し、手指消毒を適切に行いましょう。

● 適切な手指消毒の方法

手指消毒には流水と石けんによる手洗いと、消毒薬を用いた方法の2種類がありますが、消毒薬を用いた手指消毒は以下の方法が推奨されています。イラストからも分かるように、消毒が不十分になりやすいのは指の間と指先です。洗い残

た手指消毒は以下の方法が推奨されています。イラストからも分かるように、消毒が不十分になりやすいのは指の間と指先です。洗い残



イラストの出典：政府インターネットテレビより抜粋

手指消毒の効果比較

手指汚染検査用の培地を用いて、アルコールによる手指消毒の効果と比較した。

重要ポイント

- ・ 手指消毒により大半の菌を除去可能
- ・ 畜舎専用の清潔な手袋を準備する



農場で一般的に使用されているゴム手袋
天然ゴム素材によるすべり止め加工が施されたもの

■ 手指消毒



清潔に見える手のひらにも菌は付着している



アルコール消毒により大半の菌を除去する事ができた

■ ゴム手袋消毒



作業用手袋は汚染度が高く、材質によって異なるが菌が付着し繁殖しやすい環境となっている



アルコールを吹きかける事で、ある程度の菌を除去する事は可能であるが、十分ではない

しないよう、特に②と⑤の手順はしっかりと行って下さい（左ページ写真参照）。

● 手指消毒の効果

今回は、手指汚染検査用培地を用いて、アルコールによる手指消毒の効果を実際に見てみました（上記写真参照）。

手指消毒前後比較

① 消毒前

清潔に見える手のひらにも通常、菌は付着しています。大半の菌は健康な人や動物にとって問題となりませんが、このような菌に混じって家畜に病気を引き起こすものが存在しているかもしれません。

② 手指消毒後

手指消毒を行う事で大半の菌を除去する事ができました。アルコー

ル消毒により外部からの病原体の持ち込みをほとんどシャットアウトできる事になります。ただ注意しておかなければいけない事は、手指消毒はあくまで消毒時点の菌を除去するという点です。消毒後、菌で汚染された別の場所に触ると菌が再び付着するため、消毒後は専用の手袋を着用するなどして清潔な状態を保つ事が重要です。

ゴム手袋消毒前後比較

普段作業に使用している手袋についても消毒効果を確認してみましょう。今回は天然ゴムによるすべり止め加工がされた作業用手袋を使用しました。

① 消毒前

作業用の手袋は非常に汚染度が高いです。手袋の材質にもよりますが、菌が付着し繁殖しやすい環境と

なっている事が多いです。

② アルコール消毒後

手袋にアルコールを吹きかける事である程度の菌を除去する事は可能ですが、十分とはいえません。見た目で汚れている場合は定期的に手袋を洗濯しましょう。また、病原体を「持ち込まない・拡げない・持ち出さない」ためにも、衛生管理区域や畜舎ごとに専用手袋を準備しましょう。

普段何気なく行っている手指消毒の重要性が理解いただけたのではないのでしょうか。菌が見える状態にする事で有効性が再確認できたと思います。農場の生産性を脅かす病原体リスクが高まっている昨今において、手指消毒といった基本的な防疫対策の積み重ねが農場のバイオセキュリティを高めていくのに役立つと思います。